

中学部 スピーチコンテストの報告

中学部通常学級の自立活動で「自身の考えや思いを分かりやすく伝える」「表現力を養う」ことを目標に、スピーチコンテストを実施しています。本年度で3回目となるスピーチコンテストでは、10名の生徒がそれぞれのテーマで、発表を行いました。

どのようにすれば、伝わりやすいかを一生懸命に考え、練習に励み本番に臨みました。発表後は、友達と教職員が「伝え方」「話す速さ」「話す態度」「内容の理解」の4つの観点で評価を行い、最優秀1名、優秀2名を決め、表彰を行いました。

人前で発表することはとても緊張するようですが、とてもいい経験となるとともに、友達や教職員からの感想や気を付けたらいいことなどを知ることにより、これからのコミュニケーションに役立つのではないかと思います。

今後は、全員が同じ内容を発表する「課題テーマ」と自身でテーマを考える「自由テーマ」の二つを発表するなど、伝え方を更に工夫していけるようにしたいと思います。

【今年の発表テーマ】

- 「聴覚障害者のある人 生きるため」
- 「東日本大震災に思ったこと」
- 「将来の夢」
- 「辛い受験勉強を乗り越えて」
- 「地震について」
- 「未来の車」
- 「TPPについて」
- 「友達のこと」
- 「増える外来魚」
- 「家族の絆」



第2回ネットワーク会議の報告

2月24日(金)に第2回ネットワーク会議を行いました。第1回目は、8月に難聴特別支援学級担当の先生方及び支援員の方へのサポートの一環として、県内の難聴特別支援学級の横のつながりを強化することを目的として行いました。第2回目は、人工内耳を装用する聴覚障害児の早期からの教育や保育を支援していくために、各機関の役割と連携の在り方を協議することを目的に行いました。会議には、愛媛大学の高橋信雄先生、視聴覚福祉センターの先生方、PTA会長、難聴児を持つ親の会会長にも参加していただき、各機関の得意とする支援内容を明らかにしながら、人工内耳装用児、保護者のためにより良い支援をするために各機関が担っている役割や現状について話し合いました。各機関がチームとして支援していくという提案も出されました。本校が果たすべき役割について、改めて考えることができ、人工内耳装用児、そして、全ての聴覚障害の子どもたちへの支援を充実させていくことを確認し合いました。



保護者講座の報告



今年度の保護者講座が先日終了しました。25 回開講し、幼稚部の保護者の方をはじめとして、たくさんの方に参加していただきました。

この講座は、基本的に幼稚部の保護者の方、教育相談の保護者の方を対象としていますが、希望すればどなたでも参加できます。聴覚障害に関する学習を行うだけでなく、将来の進路決定に向けての情報を提供すること、手話学習の機会を設けて技術の向上を図ってもらうことを目的としています。聴覚管理や聴覚活用の基本的な話や、幼稚部行事に関連した手話の学習などを中心に行っています。また、本校小学部の参観や小学校の難聴特別支援学級の参観を行ったり、ろう者の先生の体験談を聞いたり、進路課の先生の話の聞いたり、外部講師の先生による講義を企画したりもしています。手話については、寄宿舎指導員の先生（ろう者）にビデオ撮影に協力していただき、その手話を見ながら、学習を進めるなど、全校的なバックアップの下で講座を進めています。

次年度は、3年目になりますが、今まで以上に内容を充実させ、たくさんの方々に来ていただけるようにしたいと考えています。



書籍紹介

「ぼくのだいじな あおいふね」

(偕成社 定価 1260 円)

文：ピーター・ジョーンズ

絵：ディック・ブルーナ

訳：なかがわけんぞう

耳の悪いベンは、口の動きを見て言葉を理解します。難聴児の日常と心の内を、明快な文と明るい色調の絵で分かりやすく描きます。

「星の音が聞こえますか」

(筑摩書房 松森果林 著)

10代での失聴、手話との出会い、「聞こえない母親」としての育児。掛けがえのない音への記憶と、伝え合うことの喜びを綴ったエッセイです。

